

平成25年度戸田SPIO奨学金受領者(米国より)

千葉大学 野畑 二次郎

私は2013年11月からメリーランド州ベセスダにある国立衛生研究所(NIH)で留学を開始いたしました。NIHの中にあるNIDCR(National Institute of Dental and Craniofacial Research)という機関にあるOPCB(Oral and Pharyngeal Cancer Branch)という部署に在籍していました。私の所属する研究室のPI(Principal Investigator)であるJ. Silvio Gutkind博士は、OPCBのChiefでもありました。彼の興味の対象は幅広く、Gタンパク共役受容体のシグナル伝達、癌のPI3K/Akt/mTORシグナル経路、血管新生のメカニズムなど多岐にわたります。彼の指導の下で、私は血管新生に関わる研究テーマをもらい、こちらでの研究を開始しました。遺伝子改変マウスを用いた実験経験は留学前には皆無でした。同じラボ内のポスドクに手取り足取り教えてもらったおかげで、次第に実験を進められるようになりました。そして、Dr. GutkindはNIH内外のラボとのコラボレーションも積極的におこなっており、その交流から様々な知識や技術を習得できる環境に恵まれました。

2015年9月にDr. Gutkindは研究室の移転を決断し、University of California, San Diego(UCSD)のMoore's Cancer CenterへProfessorとして移ることになりました。私は彼についていくことを決断しました。そしてUCSDに移ってから、血管新生という研究テーマ以外に、頭頸部癌におけるlong non-coding RNA(200塩基以上の非翻訳RNA)の解析も始めました。耳鼻咽喉科医である私の大学院における研究テーマが、頭頸部癌におけるmicroRNA(20塩基程度の短い非翻訳RNA)の機能解析でした。私は癌におけるnon-coding RNAについての働きにずっと興味をもっていたため、この研究についてDr. Gutkindに提案、相談したところ、彼は即座に開始の許可をくださいました。long non-coding RNAのメカニズムはmicroRNAに比べてまだ不明なところが多く、解析手法も手探りの点が多いですが、現在論文数が増加してきており注目を集めている学術領域です。最終的に、血管新生に関わる研究も、癌におけるlong non-coding RNAの発現に関する研究も小さいながら論文としてまとめることができましたのでほっとしております。

アメリカのラボでは、仕事(公)も休暇(私)も十分に満喫できる状況の中で大きな充実感を持って毎日を過ごせたことが財産です。また、妻、6歳の長女、4歳の息子を連れての渡米と生活セットアップ、そして東海岸から西海岸への引っ越しは、なかなかの困難ではありましたが、今となっては貴重な人生経験であったと言えますし、忘れがたい人生の思い出であります。

最後になりましたが、本留学に際してご支援をして頂いた戸田SPIO奨学金に深く感謝申し上げます。



私は右から2番目、Prof. Gutkindは右から4番目。

賛助員の募集について

SPIOでは、毎年一口2万円以上ご寄附下さる賛助員を募集しております。なお、納入いただいた賛助費に対しては免税措置が得られます。加入につきましては事務局までお問い合わせください。賛助員加入申込書をお送りします。または申込書をホームページからダウンロードしてご使用ください <http://www.spio.or.jp>

税制上の優遇措置について

『公益財団法人』はすべてが寄附優遇の対象となる『特定公益増進法人』に該当するため、当財団への個人の寄附及び法人の寄附は従来どおりの『税優遇措置』の対象となります。

賛助費納入のお礼

平成28年度も多くの賛助費を納入頂き、皆様のご理解とご支援に感謝いたします。今後とも引き続きご協力をお願い申し上げます。(290件 657万円)

平成28年度賛助費納入状況

賛助員	賛助費納入件数	金額(単位千円)
地方部会	42	940
医育機関	63	1,420
教授	81	1,620
准教授	7	140
個人	89	1,990
企業・その他	8	460
合計	290	6,570